

平成 21 年度 (2009 年度) ホンモロコ秋季の小糸網漁獲物調査

三枝 仁

1. 研究目的

ホンモロコの漁獲が減少しており、各種種苗放流による資源回復対策を実施している。一方、近年では琵琶湖北湖東岸において秋季にホンモロコの小糸網漁場が形成されている。そこで、秋季の小糸網漁獲における種苗放流の寄与状況を明らかにするため、漁獲物調査を行った。

2. 研究方法

平成 21 年 10 月 13 日から 11 月 6 日にかけて北湖東岸の野洲川沖、愛知川沖、柳川沖、八坂沖(図 1)で小糸網により漁獲されたホンモロコ 1,204 尾を収集し、体型測定と鱗の観察による年齢査定および耳石標識の確認を行った。

3. 研究結果

収集した 1,204 個体のうち、15 個体が 1 歳魚(2008 年級)でその他は全て当歳魚(2009 年級)であり、秋季の小糸網では主に当歳魚を漁獲していた。漁場別の収集尾数とサイズは、野洲川沖が 471 個体 $81.03 \pm 4.26\text{mm}$ (平均体長 \pm 標準偏差)、愛知川沖 149 個体 $86.44 \pm 3.47\text{mm}$ 、柳川沖 146 個体 $86.05 \pm 3.19\text{mm}$ 、八坂沖 438 個体 $83.78 \pm 3.85\text{mm}$ であった。

漁場別の標識魚混獲状況は、野洲川沖では近江八幡市佐波江に放流した 20mm 種苗が最も多く 40 個体、発眼卵放流魚が 5 個体、他に伊庭内湖に放流した 16mm 種苗と南湖へ放流した 20mm 種苗が 1 個体ずつ含まれていた。同様に愛知川沖では、佐波江 20mm 種苗と伊庭内湖 20mm 種苗が 1 個体ずつ、柳川沖では発眼卵放流魚が 1 個体、八坂沖では発眼卵放流魚が 5 個体、佐波江 20mm 種苗が 2 個体、伊庭内湖 16mm 種苗が 1 個体含まれていた(表 1)。

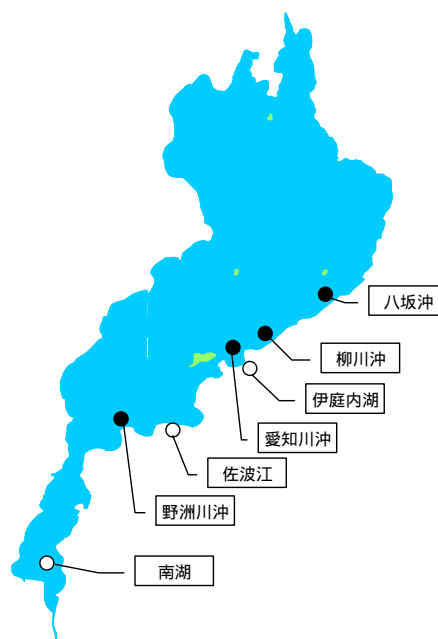


図1. 漁獲地点と種苗放流地点

表1. 2009(平成20)年度ホンモロコ秋季小糸漁獲物調査結果

年級群	種苗種別	放流場所	放流尾数 (千尾)	採捕尾数(尾)				合計 (尾)
				野洲川沖	愛知川沖	柳川沖	八坂沖	
2008年級	無標識				2	2	9	13
	20mm種苗	知内、大浦、余呉河口	497		1			1
	成魚放流魚	北湖沖合	47				1	1
2009年級	無標識			424	144	143	420	1,131
	発眼卵放流魚	佐波江、伊庭内湖	15,054	5		1	5	11
	20mm種苗	佐波江	106	40	1		2	43
	16mm種苗	伊庭内湖	98	1			1	2
	20mm種苗	伊庭内湖	43		1			1
	20mm種苗	南湖	147	1				1
計				471	149	146	438	1,204